

宮崎自然休養林の利用動向と利用者の意識

宮崎大学農学部 甲斐 重貴

1. はじめに

宮崎自然休養林は、昭和45年に指定されたもので、宮崎県内を中心とする人々の憩いの場として親しまれている。しかしながら利用者に対する体系的な調査は今のところみられない。一方、今日、森林に対する価値観は多様化し、森林の持つ保健休養機能に対する期待はますます高まりつつあり、自然休養林に対する利用者の利用動向とその意識を明らかにすることはこれからの森林のあり方を考えていく上で意義深いものと思われる。本研究は以上の観点から宮崎自然休養林の利用動向と利用者の意識について調べたものである。

2. 宮崎自然休養林の概要

宮崎自然休養林は宮崎市の中心部から南西約16kmに位置し、熊本営林局宮崎営林署家一郷国有林のとくそ山系(500~669m)と双石山(509m)に囲まれた区域にあり、指定面積は1,448haである。本休養林の景観上の特徴はほぼ中央に加江田溪谷と称される溪谷があり、四季折々の変化が楽しめる溪谷美に恵まれていることである。林況は554haが人工林、889haが天然林である。人工林は主にスギから成り、一部特別経営時代の造林地がある。天然林は主として老齢の常緑広葉樹林で一部落葉広葉樹を混生している。また亜熱帯性の樹木があり、さらに溪谷にはシダ類が多いなど植物地理学上からみて貴重な所で、双石山は国の天然記念物となっている。一方、200台駐車できる駐車場やキャンプ場、展望所、休憩所などが設けられている。

3. 調査と分析の方法

調査は実際に休養林を訪れている人々に対するアンケート調査によった。すなわち、1985年8月から11月の間、延べ13回にわたって現地に行き、利用者種々の質問項目から成る調査票を渡し、持ち帰ってもらい、記入後返送してもらった。配布枚数は8月が205通、9月が150通、10月が24通、11月が240通、計619通であった。なお、調査票の質問項目は6分野35項目から成っていたが、今回はこれらを大きく回答者の特性、

利用動向及び利用者の意識の3分野にとりまとめ、さらに一部を省略して報告する。

4. 結果と考察

(1) 回収数

返送されてきた調査票は292通で回収率は47.2%でこれを月別にみると8月が59.0%、9月が42.7%、11月が44.6%で10月分については0%であった。

(2) 回答者の特性

性別では男女はほぼ同数で、年代別では10代が19.3%、20~40代が13.7~14.8%、50~70代は2.4~9.1%であった。また、職業別では主婦が26.8%で最も多く、次いで民間会社職員、小・中・高生、公務員の順であり、居住地では宮崎市が約7割を占めていた。

(3) 利用動向

表-1に質問項目と結果を示した。同行者の種別として最も多かったのは家族で家族の憩いの場として利用されている様子が窺われた。またその他として親子会や学校などの団体による利用がみられた。同行者の数としては5人以下が最も多かったが、100人以上の多人数による利用も認められた。このように本休養林は家族を主とする比較的少人数の利用が中心のようであるが団体によっても利用されているようである。

利用目的としては散策・休養、登山・ハイキングが多かった。また、水泳も比較的多く、釣りもみられ、溪流・溪谷を持つという本休養林の特性を反映した利用の傾向の一部が窺われた。ただ、キャンプが少なく、キャンプ場が整備されていることからみると意外であったがこれは調査期間が8月中旬以降とキャンプの時期からみるとややずれていたことによると考えられる。

滞在時間についてみると2時間から5時間までの利用者が最も多く全体の約7割を占め、また4時間以上の利用者が46%もあり、比較的長時間利用されている。そこで利用目的との関係についてみると登山・ハイキングで長くなる傾向がみられた。利用回数については初めての人が最も多く、5回未満の人も含めると全体の約7割を占めているが、20回以上の人の割合も約7

Shigetaka KAI (Fac. of Agric., Miyazaki Univ., Miyazaki 889-21)

The trend of utilization of Miyazaki Rest Forest and the consciousness of user.

あり、比較的良く利用されている様子が窺えた。これは本休養林が都市近郊にあり、利用しやすいためと考えられる。次にこのうち2回以上の利用者に対して主に利用する季節について聞いたところ特に定まていない人を除くと夏が最も多く、溪流・溪谷を持つ本休養林の特性を反映していると思われる。一方、交通手段としては自家用車が圧倒的に多かった。このことはマイカーが普及した今日当然であるともいえるがこの場合特に、駐車場が整備されていること、バスの便が悪いことなどもその理由の一部と思われる。次にその所要時間についてみると30～60分が約5割を占め、最も多く、また1時間以下が約6割で、比較的近くの人々によって利用されている様子が認められる。

(4) 利用者の意識

表-2に質問項目と結果を示した。休養林の規模・山の高さについては不満を持つ人は少なく、「ちょうど良い」とする意見が約6割を占め、休養林としては、規模、山の高さに関しては、本休養林程度で不足はないように思われる。最も印象に残った場所としては、溪流・溪谷をあげた人が最も多く、全体の約7割を占め、森林をあげた人は少なかった。利用目的にみられたように登山・ハイキングといった林内に入り込む利用がかなりあるにもかかわらずこのような結果が得られたことから本休養林においては溪流・溪谷の与える印象が如何に強烈であるかがわかった。また、休養林で感じたことをみると、「新鮮で清らかな空気」の割合が最も高く、人々が溪谷と森林の作り出すすがすがしい空気に強くひきつけられていることがわかった。

次に休養林内の森林に対する意識についてみると、全体としての感じについては「良かった」や「まあまあであった」が約8割を占め、良い印象を持たれていた。このうち「良かった」と答えた人はその理由として、自然林が多い、多くの種類の樹木がある、広葉樹が多い、など自然が良く保たれていることをあげる人が多かったが、スギが青々と茂っていることをあげる人もみられた。また、「まあまあであった」と答えた人は、紅葉する樹木が少ない、枯死木や病害木がある、自然林が少ない、スギ林がある、などをあげていた。一方、失望したと答えた人はわずかであったが、その理由としてあげていたのは「スギが植栽されていて自然味が感じられない」ということであった。

ところで休養林の入口付近及びキャンプ場付近のスギ林については枝打、間伐等の保育が行われている。そこでこのような森林に対する手入れが利用者にとって受け取られているかを調べてみた。その結果、手入れについては約半数の人々が気付いていたが、気になる人はわずかであった。気になる人は理由として「自然のままが良い」をあげていた。

表-1 利用者の動向に関する調査結果

項目	%	項目	%		
同行者の種別 291	家族人 17.5	利用回数 287	今回が初めて 5回未満 5～9回 10～19回 20～29回 30回以上	43.6 27.2 12.9 9.4 3.1 3.8	
	友人 1.7		主に利用する季節 163	春夏 3.1 34.4	
	その他 20.3			秋冬 15.3 0 47.2	
同行者の数 287	1～5人 70.0	交通手段 291	自家用車 バス 自転車 徒歩 その他	71.9 12.0 8.6 1.0 0 6.5	
	6～10人 10.1			所要時間 284	30分未満 12.0
	11～99人 13.6				30～60分 47.5
利用目的 291	散策・休養 38.5	滞在時間 289	1～2時間 2.6 2～3時間 16.2 3～4時間 28.0 4～5時間 11.8 5～6時間 6.2	1～2時間 8.7	
	登山・ハイキング 34.0			3～6時間 26.8	
	自然観察 6.5			2時間以上 13.7	
	釣り 3.1				
	水泳 12.7				
	その他 4.5				

注) 調査項目名の下の数値は有効回答数

表-2 利用者の意識に関する調査結果

項目	%	項目	%		
規模について 283	もっと広い方がよい 17.0	森林について感じたこと 287	良かった 46.7		
	ちょうど良い 62.9		失望した 2.1		
	もっと狭い方がよい 2.1		まあまあであった 34.5		
	わからない 18.0		何も感じなかった 16.7		
山の高さについて 283	もっと高い山が欲しい 11.7	手入れに気付きましたか? 288	はい 45.5		
	ちょうど良い 62.5			いいえ 54.5	
	もっと低い方がよい 7.1				
わからない 18.7	手入れは気になりますか? 130	はい 11.5			
最も印象に残った場所 263			溪流・溪谷 73.8	いいえ 65.4	
			森林 13.3		わからない 23.1
			山頂 6.5		
	キャンプ場 2.3				
その他 4.1					
休養林で感じたこと 265	静寂と沈黙 12.1				
	自由な行動 5.3				
	新鮮で清らかな空気 64.9				
	休養 6.0				
	健康 9.4				
何も感じない 2.3					

注) 調査項目名の下の数値は有効回答数